

2022年度 第2回 公立大学法人埼玉県立大学経営審議会 議事録

1 日 時

2022年11月15日(火) 14:40~16:10

2 開催方法

ハイブリッド開催

3 出席者

田中議長、星委員、阿部委員、伊藤(善)委員、荻野委員、岡島委員、井橋委員、伊藤(博)委員、松田委員、池田委員

4 出席教職員

鈴木副学長兼学部長、金村研究科長、濱口研究開発センター長、林学生支援センター長、延原情報センター所長、田口地域産学連携センター所長、滑川保健センター所長、福田副局長、森調整幹兼総務担当部長

5 議事概要

審議事項1 令和4年度業務実績報告書(中間評価)について

資料に基づき、福田副局長から説明した。

案のとおり理事会に提出することについて、異議なく承認された。

審議事項2 令和5年度予算編成方針について

資料に基づき、福田副局長から説明した。

案のとおり理事会に提出することについて、異議なく承認された。

審議事項3 令和4年度11月修正予算について

資料に基づき、福田副局長から説明した。
案のとおり理事会に提出することについて、異議なく承認された。

審議事項4 人事院勧告及び埼玉県人事委員会勧告に基づく法人規則の改正について

資料に基づき、森調整幹から説明した。
案のとおり理事会に提出することについて、異議なく承認された。

報告事項1 大学院等の改革について

資料に基づき、伊藤副学長から報告した。

主な発言は以下のとおり

- ・せっかくの新しい試みである。本学の宣伝にもつながるので、プレスリリースした方が良い。
→県との調整が済んだら、詳細を詰めて本年度中に公表したいと考えている。プレスリリースについてもしっかり考えたい。

報告事項2 業績評価指標の推移について

資料に基づき、伊藤副学長から報告した。

主な発言は以下のとおり

- ・寄附件数について、2019年度は件数が非常に多いが、その理由は何か。
→2019年度は創立20周年記念事業を行い、寄附金を大々的に募ったため、227件となった。そういった機会なければ例年1桁くらいになっている。
- ・継続的に寄附を集める仕組みを作った方が良い。
→広報紙に寄附のお願いを掲載するなど取り組んでいるが、なかなか向上しない現状である。

・固有職員比率の定義、内訳はどのようになっているのか。正規職員はキャリア採用が多いのか、新卒採用が多いのか。

→非常勤職員や臨時職員を除くいわゆる正規職員が本学に36名おり、内6～7割が県からの派遣職員、残りがプロパー＝法人固有職員である。採用は定期的に実施している。民間企業等経験者が多く、新卒採用は2名である。本学卒業生もいる。

・同窓会が自主的・自発的に活動できるよう、例えば各地の支部を置くなど、働きかけをした方が良い。将来、同窓会から本学に寄附をいただくということもできると思う。

・医師に関しては、特に北部、利根医療圏とそれ以外の圏域で大きな地域偏在・診療科偏在がある。県立大学の卒業生はどのような地域に就職しているのか。地域の偏在はあるのか。

→大学が東部地域にあるので、北部地域まで関心が届きにくいことは事実である。学生は総合病院や大学病院を志向する者が多い。最近は地元志向も強くなってきていて、北部から通う学生の中には地元で働きたいという者もいる。

・北部圏の病院では、県南部からの採用が難しいので、群馬県内の就職説明会に参加しているところも多い。公立の育成機関であるので、県全体、地域の偏在に目を向ける方策をとっていただきたいと思う。

→看護師については県内病院の説明会を毎年実施し、30か所くらいの病院に参加いただいている。また、リハビリテーションに関する職種の説明会では、県内100か所くらいから参加をいただいている。また、指定校推薦の制度も構築しつつある。可能な限り県内就職率が向上できるよう、引き続き努力していく。

・学生1人当たりの教育経費の減少傾向である要因は何か。

→2014年度は目的積立金を取り崩し利用したため、大きく上がっているが、以降はほぼ横ばいである。2021年度はコロナ禍で実習に行くことができず、実習経費を使うことができなかったため、金額が下がっている。

報告事項3 「センター組織のあり方検討プロジェクトチーム」の設置について

資料に基づき、伊藤副学長から報告した。

報告事項4 次期認証評価における受審機関の変更について

資料に基づき、伊藤副学長から報告した。

主な発言は以下のとおり

・公立大学に配慮した評価をいただけるということで反対するわけではないが、大学基準協会の評価については適格であり、高く評価している。

→大学基準協会から指摘をいただき、それに沿ってこれまで改革を行ってきた。これまでの改革を踏まえた次期認証評価は受審にあたって問題はないだろうと思っており、有用であったと考えている。

報告事項5 令和4年度8月修正予算について

資料に基づき、片岡財務担当部長から報告した。

以上